

世界の中の日本

～地図と統計から これからの日本を考える～

●石川県 宝達志水町立志雄小学校 教諭 中江 転



1 はじめに

現行学習指導要領では、地図帳は3年生より配付されており、各学年の目標でも地図帳活用について記載されています。6年生では、「地図帳や地球儀、統計や年表などの各種の基礎的資料を通して」必要な情報を集め読み取り、新聞や意見文などの手法を使って適切にまとめる技能を身に付けることとなっています。しかし、実際には5年生の時よりも地図帳を開く機会が少なくなっていることも多いように思います。ここでは、「世界の中の日本」(国際の単元)で地図帳の世界のページや資料図、QRコンテンツの統計資料を用いて、これからの日本の在り方、役割を考えさせるための場面をいくつか紹介します。

2 大単元「世界の中の日本」の単元計画

時間	学習内容
オリエンテーション	
1	世界の人々の願いについて考えたことを基に学習問題を立てる。例「世界の中の日本は、平和や安全のために、どのような役割を担っていけばよいだろうか」
小単元「日本とつながりの深い国々」	
1	日本とつながりの深い国を出し合い、そう考えた理由を交流して、調べたい国をリストアップする。
2	日本とつながりの深い国のなかで自分で決めた国について調べ、まとめる。
3	(産業・文化・くらしなど分野に分けて調べる)
4	調べまとめたことを交流し、意見文を書く。
5	国際交流の在り方について発表する。
6	国際交流の在り方について発表する。
小単元「世界の未来と日本の役割」	
1	世界各地で起こる紛争、環境破壊、貧困等の地球規模で発生している問題を理解する。
2	国際連合で働く人々について理解する。
3	持続可能な社会を目指すためにどんなことが必要かを考え、交流しまとめる。
4	国際協力の分野で活躍する人々について理解する。ユニセフ・ODA等を取り上げる。

5	世界の未来やこれからの日本の役割について、学習問題に対する自分の考えを意見文としてまとめる。
6	意見文を交流し、考えを深め合う。さらに意見文を手直ししてまとめる。

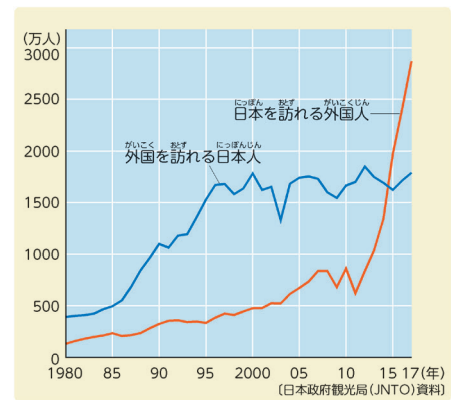
*黄色は、地図帳活用場面。

3 授業の展開と地図帳の活用

6年生社会科では、「世界の中の日本」という大単元の中で、国際理解を目指すことをねらいとして、二つの小単元「日本とつながりの深い国々」「世界の未来と日本の役割」について、1月から2月にかけての単元として授業が実施されることとなります。教科書や資料集の資料を手がかりとして、工業や農業、観光業等の産業のさまざまな視点から日本とのつながりを見て、今後の日本の在り方を自分事、自分たち事として考えていくうえでとても大切な単元です。近年、繰り広げられている「ウクライナ・ロシア情勢」や「北朝鮮によるミサイル問題」、「世界各地の民族紛争、難民キャンプ」、「世界の環境問題や飢餓、貧困」など世界が直面している問題が山積しています。これらの問題をどう考え解決していけばよいか、既習や経験をフル活用して、本単元の学習を進めながら児童の最適解を考えていくこととなります。

ところで、統計資料の読み取りには算数科での学習が土台となりますが、社会科の学習では具体的にグラフで数値の変遷をどうとらえるかを考え、他の資料と併用することで根拠を探っていくこととなります。「この年に急に生産量が減少したのは、～という出来事があったからみたいだね。この資料を見れば分かるよ」「食料自給率をみると、どれだけ日本が外国に頼っているかが分かる。同時にこの資料を見ると説得力が増すね」といった

3 日本と外国の人を通じた結びつき

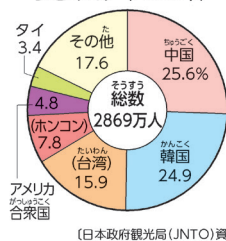


① 日本を訪れる外国人と外国人を訪れる日本人の数



② 東京を観光する外国人 (2016年)

③ 日本を訪れる外国人のうちわけ (2017年)



④ 日本で暮らす外国人の出身地 (2017年)

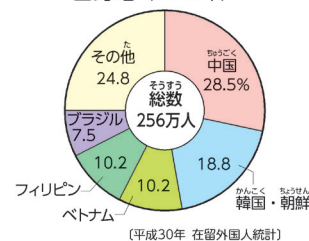


図1 日本と外国の人を通じた結びつき 『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』 p.100

交流ができるような機会を設けることで、児童にも統計を読み取る技術が身に付くはず。そうした経験を積み重ねていけば、社会科学習の楽しさや奥深さを味わうことができます。

大単元の導入では、世界の人々がどんな願いをもっているか児童に予想させます。「戦争や紛争のない平和な世界にしていきたい」「みんなが助け合って交流や貿易をし、誰も不平不満を感じないような世界」「化石エネルギーに頼らない持続可能な世界」など、いろんな願いが出てくるのが考えられます。こうした願いを集約したうえで小単元につなげていきます。

次に、小単元「日本とつながりの深い国々」の導入で、児童に日本とのつながりが深い国を予想させます。アメリカ合衆国、中国、韓国、サウジアラビアといった主要な国々に絞る前に、自分の経験や知識を基に予想し、それらと主要な国々とのちがいや つながりについてさまざまな資料から読み取らせていきます。その際に地図帳p.105「世界の統計」も役に立ちます。また、児童から具体的な国名があがった時には、その国がどこにあるか、日本との位置関係を、地図帳p.118~120「①世界の国々」で確認させることが大切です。

また、地図帳p.99~100「日本と世界の結びつき」では、日本と他の国との結びつきについての資料が分かりやすく掲載されており、児童の学びを深める際にとっても有効に活用することができます。

す。例えば、外国を訪れる日本人、日本を訪れる外国人の推移、日本を訪れる外国人のうちわけが紹介されています。近隣の韓国、中国、台湾といった国や地域との結びつきが強いこと、外国からの観光客が近年爆発的に伸び続けていることが分かります（コロナ前のデータですが）。また、日本で暮らす外国人の出身地のグラフでは、東南アジアやブラジルの出身者がたくさんいることも分かります。教科書や資料集と、こうした地図帳のデータを比較・分類していく中で、日本と外国との結びつきを詳細に分析することができます（図1）。

そして、本単元の終末で取り上げる「ODA（政府開発援助）」。「日本からのODAを受けている国々の傾向を分析すれば、その国のどんなことが課題で、日本がどうかかわってそれらを解決しようとしているかが見えてきます。産業だけでなく、その統計から国の課題を探っていくうえでとても有効です。教科書ではアジアやアフリカ、中・南アメリカなどの地域ごとの分布で示されていますが、地図帳p.105のQRコードで読み取った統計資料では、国ごとの日本との二国間政府開発援助（支出純額）が詳しく記載されています。「世界の統計」の中より「その他」の「日本からのODA」を選び、出てきた表を支出純額が多い順に並び替えます（図2、次ページ）。その数値が高いほど日本からのODAの度合いが高くなります。また、「統計地図」をクリックすると、日本から

降順に並べ替えたもの

順位	国名	単位 (百万ドル)
1	インド	1794.11
2	バングラデシュ	1139.18
3	ミャンマー	756.93
4	フィリピン	498.47
5	ウズベキスタン	384.16
6	ケニア	213.90
7	イラク	212.43
8	エジプト	161.13
9	カンボジア	154.89
10	ベトナム	148.63
二国間政府開発援助 (支出純額) 計		7434.48 (百万ドル)

図2 日本からのODA上位10か国 (QRコンテンツ)

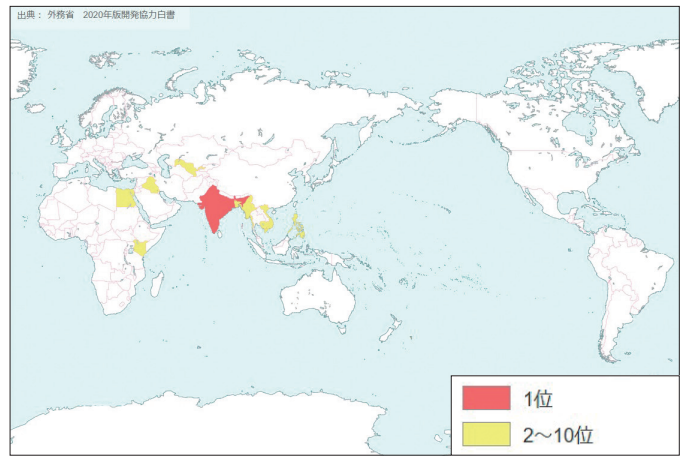


図3 日本からのODA上位10か国を表した地図 (QRコンテンツ)

のODAの上位10か国が表示されますが (図3)、児童は地図を見ただけでは、どこの国かわからないので、地図帳で確認させるようにするとよいでしょう。教科書や資料集で提示された資料と並行してこのコンテンツの資料を活用していけば、現在の日本の役割が明確に理解できてきます。

QRコンテンツを利用し、日本からのODAをどんどん調べていくと、「貿易や産業でつながりの深い国々と、日本からのODAを受けている国々はなぜ同じにならないのか」という疑問をもつ児童もいるかもしれません。そのときは、どうしてインドが額として日本からは一番多く援助を受けているのかを予想させます。実際にはODAでどのような事業が行われているか、写真を提示するのもよいでしょう*。児童から「貿易と経済援助は全く別。これから発展しそうな国を支援して、発展を援助してからいろんな恩恵を受けるプランが日本にあるのでは」「世界の先進国の一つである日本は、世界の発展に協力していく役割があると思う」「ODAを充実させることは、世界の発展に力を尽くすこと。結果的に、世界の平和や安全につながる」といったことが出てくれば、多角的に考えられていると評価することができます。

④ おわりに

本単元の学習を進めていく際に、複線型授業をできるだけ取り入れていくことをおすすめします。複線型授業とは、ある課題解決学習の中で、自分たちで、もしくは自分で学習目標を設定した後、

学習課題を見出し、自分の必要感に応じて個別最適の学習と協働の学習を各自の学習ペースで組み合わせる授業を指します。そのためには、本単元を取り上げる以前から素地作りを行う必要がありますが、社会科はこうした主体的・対話的な学び、そして深い学びを実践していくには、まさにうってつけの教科であるといえます。この複線型を取り入れた単元展開をルーティン化していくと、児童は次第に進んで学習を進めていくことができるようになってきます。例え一人で解決できなくとも、グループで、クラスみんなで考え共有する。そうした学習経験を経たしめくりとして、意見文などで自分の考えを整理しまとめたものを基に交流を深める。こうして、さまざまな考えに触れていく中で、よりよいアイデアや解決策を見つけ実践しようとする態度を養うことができます。まさに、この態度こそがこれからの日本、世界を生き抜くために必要な資質です。

きっと本単元は、3年生から始まった4年間の社会科学習の集大成となるはずですが。本単元を通して、「これからの日本は、世界のいろんな国々と助け合い、つながりを強くしていく必要がある」「私利私欲に走らず、互いのよさを認め合って足りないところを補い合えるように協力し合える世界を目指していきたい」など、今後の未来の日本や自分たちの地域のことを考え実践し、平和な世界を構築していくきっかけづくりにつなげてほしいと願うばかりです。

* 「ODA見える化サイト」 <https://www.jica.go.jp/oda/>